志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和６年度学校だより
第　４　号
令和６年６月 28 日発行

本は宝物

〈２年生の育てている夏野菜〉

例年に比べずいぶん遅い梅雨入りとなりました。おかげで、いつもはなかなか進まない水泳学習がどんどんと進み、満足げな顔をしてプールから教室へ戻る子どもたちの様子がたくさん見られた６月でした。

梅雨の時期になると、外で遊ぶことができない日も多くなり、外遊びが大好きな本校の子どもたちにとってはストレスがたまる時期にもなります。ただ、外で遊ぶことができない時期だからこそ、読書の楽しさを味わわせるチャンスの時期だとも言えます。

本校では、毎年７月と１月に児童アンケート、保護者アンケートを実施しています。その中に「家庭で読書をしている」という項目があります。この結果ですが、どちらの結果もここ数年、どんどん「読書をしている」子どもの割合が減ってきています。確かに子どもたちは家庭に帰ってからも、宿題や習い事に忙しく、また、その他の時間もゲームやスマホ・タブレット端末などを使って過ごすので、「時間がない」という状況になっているようです。

そんな子どもたちに、ミッキーマウスをはじめとする多くのキャラクターの生みの親で、ディズニーランドなどのディズニーリゾートをつくった、ウォルト・ディズニーの次の言葉を紹介したいと思っています。

> 宝島の海賊たちが盗んだ財宝や、カリブ海の底に眠っている宝物よりも、本には多くの宝が眠っている。そして、何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ。

読書には、①国語力や語彙力があがる　②知識や教養が身に付く　③他人がしてきたことを追体験できる　といった様々な効果が期待できます。テレビやインターネットでもできることかもしれませんが、音や映像がないことで、想像力を養うことができます。私たち大人も、小説などを読むとき、頭に情景を浮かべながら読みます。文字情報をインプットしつつ、映像化するという２つの作業を頭の中で同時に進めることで、脳が活性化され、感性が磨かれていきます。想像力が身に付けば、他人を思いやる気持ちも育まれ、コミュニケーション力も上がるのではないでしょうか。

そう考えると、ディズニーの言うように、本は光り輝く金貨や宝石よりもとても貴重で、見るだけでなく、そこから自分自身が吸収できることがあり、成長させてくれるものであると考えることができます。

学校では、以前から図書ボランティアの皆さんが「本の楽しさを味わってほしい」と読み聞かせをしてくださっています。また、読書の機会を増やそうと、今年度は金曜日の朝学習を「読書タイム」とし、続きは家庭で週末読書として持ち帰って読むよう指導しています。子どもたちがたくさんの宝物に出会うことを願っています。

１学期もあとわずかとなりました。７月は、社会見学や野外活動などの行事を進めるとともに、学習や生活のまとめをし、２学期につながる夏休みが迎えられるようにしていきたいと思います。熱中症も心配される時期でもあります。体調管理にも留意をして過ごせますよう、保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

校長　西井　佳寿美
教　職　員　一　同

PTA 環境美化活動・原子力災害引き取り訓練　　6月29日

明日 29 日には、授業参観の後、環境美化活動をお世話になります。昨年度、初めての試みでしたが、子どもたちはお家の方と一緒に行うことで、いつも以上に張り切ってそうじをしていました。また、「お家の方が一生懸命してくださったのだから、汚さないように使おう」という感想がありました。いつもは子どもたちの手が届かないようなところをしていただけると助かります。よろしくお願いします。

また、原子力災害引き取り訓練は「いざ」というときのための訓練です。様々なことを想定しながら行います。混み合う時間帯もあるかと思います。交通安全には十分気を付けて引き取りをお願いします。